

週報

【No.764 2017/4 第2例会】

例会日：毎週金曜日
 例会場：碧海信用金庫本店3F
 安城市御幸本町15-1
 TEL：0566-75-8866
 FAX：0566-74-5678
 Email：anjo-rc19580206@katch.ne.jp
 HP：http://www.anjo-rc.org

第2910回例会

2017年4月14日(金) 12:30~13:30
 司会者：大見 宏君
 ソング：「君が代」「我等の生業」
 卓上花：ガーベラ
 ニコボックス委員会：内藤 教恵さん



2016-2017年度RIテーマ：
「人類に奉仕するロータリー」
 安城ロータリークラブ会長方針：
「地域社会に貢献し笑顔を共有しよう ~Let's smile together ~」

- 会長：富岡 里美
- 幹事：戸谷 央
- クラブ会報：稲垣淳・磯貝廣治・山口佳久
- 創立日：S33年1月10日
- RI加盟認証日：S33年2月6日

■ 会長挨拶

富岡 里美会長

Let's smile together 地域社会に貢献し笑顔を共有しよう



喜んでもらいたい人が見つかったら人は強くなる（真央ちゃん）

■ 幹事報告

戸谷 央幹事

1. 例会終了後、創立60周年記念事業準備委員会を行います。
 尚、当初予定していました4/21・5/12・5/19の創立60周年記念事業準備委員会会議ですがキャンセルいたしまして、5/11(木)昼食付にて碧信3F例会場にて行います。
2. 4/21 11:30~次年度理事会を行います。
3. 4/22 地区研修協議会出席されます方に、案内を配布いたしました。
4. 地区大会に参加された方に、記録誌を配布致しました。
5. IMの報告書をテーブルに数部配布いたしましたので欲しい方はお持ち帰りください。
6. 個人的な募金のお願いが来ております。チラシをご覧ください。
7. 観劇同好会より 4/16(日)名古屋四季劇場にて開催の「リトルマーメイド」チケット購入されました方は、各自昼食をおとりいただきまして会場にお越しいただき観劇下さい。

■ 今月のお祝い



会員誕生日 4名
 結婚記念日 6組



夫人誕生日 6名
 還暦 1名

■ 出席報告

岩井 春次君

会員	58名
出席義務者	44名
出席	44名
欠席	10名
出席免除者の出席	11名
出席率	81.80%
修正出席率	3月24日 第2908回例会 80.1%

テーマ「スリランカ友好参拝訪問の旅」

国名 スリランカ民主主義人民共和国
人口 約2,063万人
面積 6万5,607平方キロメートル(北海道の約0.8倍)
首都 スリ・ジャヤワルダナプラ・コツテ
民族 シンハラ人(72,9%)、タミル人(18.0%)、スリランカ・ムーア人(8.0%)、
言語 公用語(シンハラ語、タミル語)、連結語(英語)
宗教 仏教徒(70.0%)、ヒンドゥー教徒(10.0%)、イスラム教徒(8,5%)、ローマン・カトリック教徒(11,3%)



スリランカの歴史

1505年にポルトガル、次にオランダ、そしてイギリスとスリランカは500年近く白人の植民地として搾取されていた。独立したのは1948年。独立後も元々の民族であるシンハラ人とインド南部からやってきたタミル人との内戦が続いた。これはイギリスの植民地政策で人口15%程度のタミル人に高等教育と銃を与え、シンハラ人を支配させたこと。これが遺恨を残し、独立後はシンハラ人は「自分たちの国」を取り戻そうと「シンハラ人優遇政策」を採り、タミル人を追いやる。その対立が民族間の全面戦争となり、26年間もの内戦状態を引き起こし、終結したのは2009年のことだった。

インド洋上に浮かぶ一雫の涙に似た島、光り輝く島、スリランカ(旧セイロン)を8月26日から8日間訪問しました。「憎悪は憎悪によってのみ病む。」この国の初代大統領ジャヤワルダナは、戦後処理問題で窮地に追い込まれていた我が国に、サンフランシスコ講和条約で対日賠償請求権を放棄してくれた親日国家である。慰安婦問題や領土問題で今だに友好の道を進めない隣国とは大きな違いである。

国民の70%が佛教徒といわれるこの国は、日本と同様島国であり、高い湿度と暑さは我が国の盛夏と全く変わりはない。その上に年中降り注ぐ太陽は大地を焦がし、脱帽と履物を脱いでお参りすることを指南される寺院の参拝は、暑さとの格闘という独特の一面を持っている。しかし現地の人々の家族揃って、しかも白い装束を身にまとい敬虔な祈りを捧げる光景は我々にとって大きな学びでありました。島の北部に点在する世界文化遺産の数々は圧巻である。2000年前の往時を偲ばせるスリランカ最古の王朝遺跡アヌラタプラ、同じく10~12世紀王朝のポロナルワ、巨大な仏塔と石柱、石立像が訪問者の目を奪い、心を惹きつけ、お釈迦様ゆかりの菩提樹の巨木が大きな傘を広げている。緑のジャングルの中に忽然と巨岩がそびえている。これぞスリランカを代表する著名な「シーギリアロック」だ。5世紀に当時の王様が岩山の頂上に築き上げた王宮は今でも高所恐怖症の人には頂上に辿り着くことを許さない。築城の不思議さは常軌を大きく超えてむしろ謎めいている。

地球上の何処かに私の植た命がある。こんな夢の実現のために、私達はスリランカ訪問の友好に記念としてこの地に植林をしてきました。島の中央部、古都キャンディから道幅がバスと同一の道路を進むこと一時間、初めて見る外国人(私達)に驚きと共にやさしい眼差しを送る沿道の人々。道路幅が限界に達した頃、小高い丘に目指す学校はあり、小道の両側には三百人を超える生徒父兄の歓迎が待つていました。学校の裏山にマンゴー、グアバー等フルーツ樹木百五十本を生徒達と共に植えました。紅茶やお菓子の接待を受け、交流会では日本から持ち寄ったお土産を贈り、スリランカのダンス、日本の歌、マジックショーと暑さを忘れて大いに盛り上がりました。今後五年、十年の流れは生徒の皆さんの真心の管理を糧に甘い果実生み、多くの人々の舌を潤し、そして[RINSHOJI JAPAN]は永遠に生き続けるでしょう。私達が再びこの地を訪れる機会は少ないけれど、「一期一会」初めて訪れ、出会った人々と共に流した汗、屈託のない交流、心のこもった歓待と私達は終生忘れることはないでしょう。